

草津学区 まちづくり計画

第4期

みちしるべ
草津学区まちづくりの道標

令和8年度（2026年度）～令和12年度（2030年度）



令和8年4月
草津学区ひと・まちいきいき協議会





目次

1. はじめに	(1)計画策定の目的 (2)計画の期間 (3)計画の範囲	2
2. 学区の概要	(1)学区の特性 (2)学区の人口 (3)学区の文化と歴史 (4)産業・環境 (5)交通環境	4
3. 前計画のふりかえりと地域課題	(1)協議会の活動とふりかえり (2)地域の課題	9
4. 第4期計画の概要	地域の将来像	15
5. 第4期基本方針	(1)安心安全に暮らし続けられるまちづくり (2)誰もがいきいきと暮らせるまちづくり (3)うるおいのある住みよいまちづくり (4)地域の活力を生み出すまちづくり (5)人権を尊重するまちづくり	15
6. 策定の経過	(1)策定委員会名簿 (2)計画策定の日程 (3)住民アンケートの実施	22

ごあいさつ

私たちのまちがもっと好きになれるように、「ここで暮らすことができよかった」と思えるように、そんなまちをめざして地域みなさんの声をもとにつくったのが今回のまちづくり計画です。

この計画は、これからの地域を導く未来への道標（みちしるべ）でもあります。この計画をきっかけに、地域活動に参加したり、ご近所との交流が少し増えたり、そんな“よい変化”が生まれることを願っています。



草津学区ひと・まちいきいき協議会
会長 奥村久史

(1) 計画策定の目的

草津市では少子高齢化の進行や社会の変化を見据え、「ひと・まち・ときをつなぐ『絆をつむぐ ふるさと健幸創造都市 草津』」という将来像を掲げ、持続可能な地域づくりが進められています。

ここ草津学区では平成22年(2010年)11月に『草津学区ひと・まちいきいき協議会』を設立し、平成26年(2014年)8月には草津市から学区を代表する地域まちづくり協議会(以下、「協議会」)として正式に認定されました。協議会は「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、町内会をはじめとする地域のさまざまな団体が協力し、学区単位でのまちづくりに取り組んでいます。

今回の計画づくりにあたっては、地域の皆さんの声をできるだけ反映するために住民アンケートを実施し、多くのご意見やご提案をいただきました。これらの声を踏まえ、地域の課題や将来に向けた思いを共有しながら、協力してまちをより良くしていくための道標(みちしるべ)として、この計画をまとめました。

高齢化の進行など地域を取り巻く課題は複雑になりつつありますが、地域で暮らす皆さんや活動団体が力を合わせることで、安心して暮らせる住みよいまちをつくっていきます。

◆第4期計画 策定のポイント	
草津学区のこれからの「夢」	<p>草津学区らしい未来像を考えて、住民の声などをヒントに計画の骨子や基本方針に盛り込んでいきます</p> <p>例えば、・街道文化の継承 ・新旧住民の交流促進 ・住民も来訪者も安心して利用できる道路についての検討 など</p>
現在実施している事業	<p>新しい計画の骨子・基本方針と既存事業との関係性を再確認し、計画に位置付けます。</p>
組織体制・連携方針など	<p>まちづくりを進める上での効果的な組織のあり方 連携先、担い手づくり等、必要に応じて盛り込みます</p> <p>例えば、・担い手の高齢化と不足 ・SNSを活用した魅力発信 ・手上げ方式など住民ニーズに合わせた事業の実施 など</p>

(2) 計画の期間

本計画の期間は令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とし、その間に実施する事業等について計画するものです。

第1期	平成24年度（2012年度）～平成27年度（2015年度） [4年間]
第2期	平成28年度（2016年度）～平成31年度（2019年度） [4年間]
第3期	令和2年度（2020年度）～令和7年度（2025年度） [当初5年間/1年間の延長により計6年間]
★本計画	令和8年度（2026年度）～令和12年度（2030年度） [5年間]

(3) 計画の範囲

この計画は、地域にとって身近な生活圏域である草津小学校区を対象とし、協議会および協議会を構成する各町内会、各種の団体・個人・企業等が、主体的に取り組める内容を範囲とします。計画の推進にあたっては、市や学区で策定されている計画等との整合を図るものとします。

◆まちに関わる計画の例

- ・草津市総合計画
 - ・草津駅周辺エリア未来ビジョン
 - ・草津都市計画道路整備プログラム
 - ・草津学区地区防災計画
 - ・草津学区地域福祉計画
- など



(1) 学区の特性

草津学区は草津市の中心に位置し、古くからまちの中核として発展してきました。

北側は駅前エリアに隣接し、宿場町としての歴史と都市的な利便性が調和した地域です。一方、南側は市役所などの公共施設が集まる行政の中心エリアに隣接し、落ち着いた住宅街も広がっています。



草津宿本陣

東海道と中山道が交わる宿場町の歴史、市の中核機能が集積する行政エリアという二つの特徴を併せ持ち、お寺や草津宿本陣、商店、公園（込田公園・草津川跡地公園）、草津宿街道交流館、夢本陣、福祉施設、草津まちづくり（株）、えふえむ草津、福祉法人など市を代表する施設や団体も多くあります。また、新旧の草津川に寄り添う、水と緑の豊かな景観にも恵まれています。



関連情報

草津宿街道交流館



草津まちづくり株式会社



(2) 学区の人口

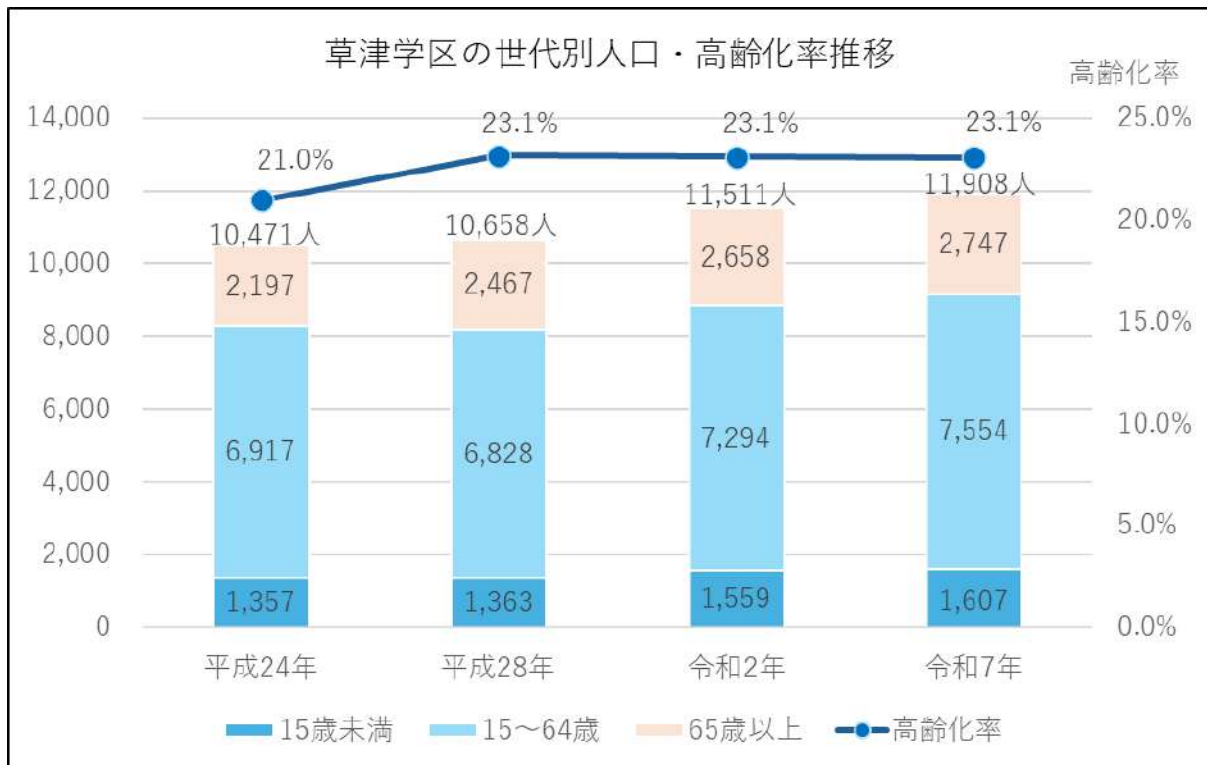
草津市が公開している最新の住民基本台帳（2025年時点）では、市の人口は141,304人となり、全国的に人口が減っている市町が多

	草津学区	草津市全体
人口	11,908人	141,304人
世帯数	5,800世帯	65,743世帯
平均年齢	45歳	45歳

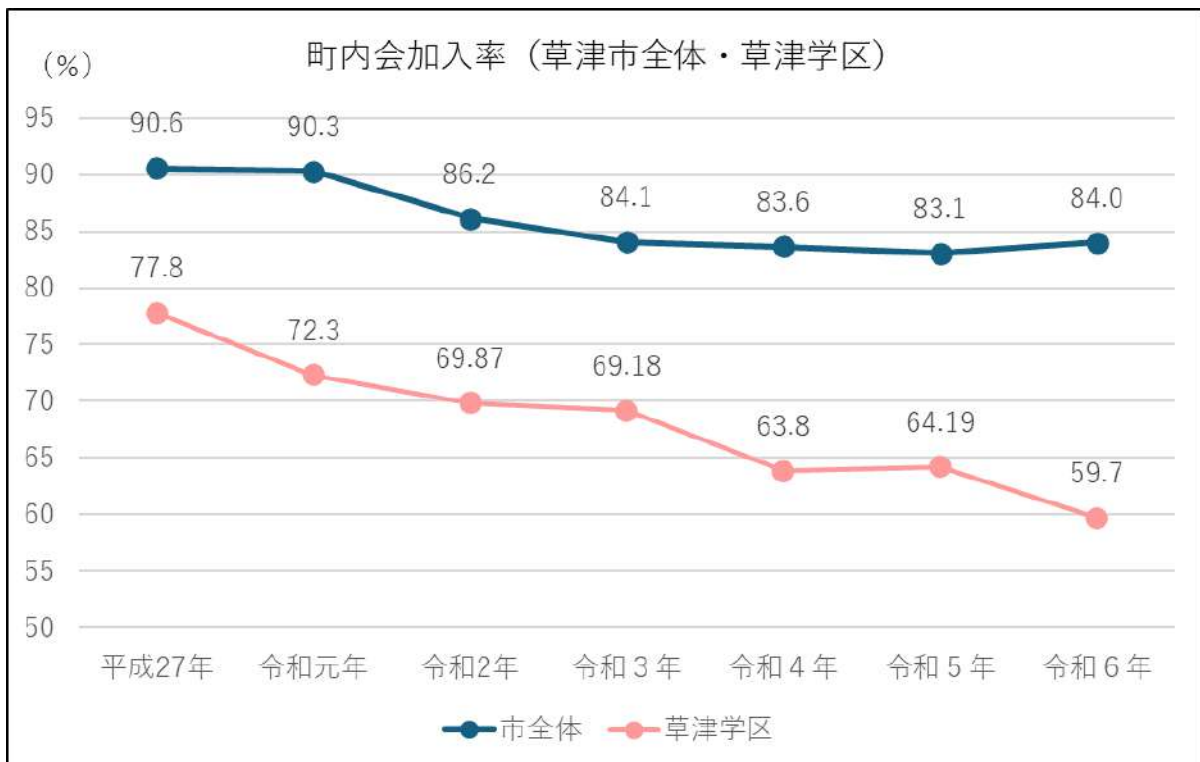
住民基本台帳 令和7年（2025年）12月31日現在

い中で、今も尚、人口が増えている数少ない市のひとつです。この先もしばらく緩やかに増えることが見込まれますが、市の分析では「人口増加は近い将来に落ち着き、その後は減少に向かう可能性がある」とされています。

草津学区については、ここ数年は「ほぼ横ばい」か「ゆるやかに増える」傾向が続いており、子ども（15歳未満）は少しずつ増えている傾向があります。しかし、町内会加入率については低下の傾向が顕著で、今後の高齢化率の上昇とあわせて、地域活動の担い手の不足が課題となっています。



出典：草津市人口統計・住民基本台帳（オープンデータ）



(3) 学区の文化と歴史

「草津」の地名が初めて文献に登場するのは、鎌倉時代後期の『一遍上人絵伝』にまで遡ります。古くは近隣の「野路」が交通の要衝として栄えていましたが、次第にその役割が草津へと継承され、東国と京を結ぶ要地となりました。江戸時代に入ると、東海道と中山道が分岐・合流するこの地に「草津宿」が整備されます。本陣や旅籠には大名から庶民まで多様な人々が足跡を残し、全国各地の情報と文化が交錯する「出会いの宿場町」として賑わいました。

現在の草津学区は、JR 琵琶湖線と国道 1 号という二つの動脈により三つのエリアに分かれ、それぞれが独自の個性を保ちつつ有機的に繋がっています。

中央部はかつての宿場町の面影を今に伝える区域です。明治以降も役場や銀行が集積し、伝統を重んじつつ新取の気風を育んできました。商業の中心が駅周辺へと移った現在も、国指定史跡の「草津宿本陣」を中心に、老舗商店と新しい暮らしが共存する文化的な景観を維持しています。

学区の東部には、昭和 11 年（1936 年）に田園を切り拓く形で現在の国道 1 号が開通しました。当初はのどかな田園風景でしたが、昭和 29 年（1954 年）の草津警察署移転を象徴として、沿道には店舗や工場が進出し、モータリゼーションという新たなライフスタイルを取り込んできました。昭和 40 年代以降に形成された住宅地には市外からの転入者も多く、活力あるコミュニティが形成されてきました。

かつて田園が広がっていた学区の西部は、戦後の教育と産業の振興により姿を変えました。



旧東海道沿いの商店街



建設中の歩道橋（国道 1 号）



国道 1 号沿いの草津警察署

昭和 23 年（1948 年）の草津高等学校（現・湖南農業高校の場所）の開校は若者の活気を、昭和 35 年（1961 年）の電子機器事業所の進出は、先進的なものづくりを呼び込みました。さらに昭和 58 年（1983 年）には市立図書館が開館、市民の文化拠点となり、現在は利便性の高いマンション群と調和した居住エリアとして進化を続けています。



大江霊仙寺線図書館周辺

（４）産業・環境

学区の中央に市役所や県の出張機関といった行政機能が集積し、市民生活を支える中核的役割を果たしています。また、古くから商業地として栄えた東海道沿いの商店街では、草津まちづくり株式会社が「東海道・草津宿テナントミックス事業」などを展開し、地域経済の活性化が図られています。



旧草津川跡地

自然環境と歴史的景観については、新・旧草津川に隣接し、市街地にありながら水辺と緑が調和した景観が保たれています。旧草津川跡地は「にぎわい」と「うるおい」を創出する空間として整備され、多くの住民の憩いの場となっています。加えて、草津川跡地公園は最終的に全長約 7km・6 区画の都市公園として整備が進められており、現在は最東部の「区間 6」で新たな整備計画が進行中です。



旧山内邸

さらに、歴史的街並みを活かした空間づくりとして、街道の無電柱化による景観整備や貴重な歴史的建築物「旧山内邸」の公開・活用など、地域のアイデンティティを継承する取り組みも進められています。また、地域活動の一つの拠点である「込田会館」の改修により、住民の安全・安心な交流機会の創出と福祉コミュニティ機能の強化が図られています。



込田会館

(5) 交通環境

主要幹線道路である国道1号とJR琵琶湖線が学区を南北に貫く草津学区は、広域的な交通アクセスに優れた環境を有し、学区の商業的な発展と住民生活における高い利便性を支える基盤となっています。

近年では草津3丁目交差点の道路拡張により、慢性的な渋滞の緩和や歩行者の安全性向上など、学区内の回遊性と交通利便性がさらに高まっています。

また、既存の市街地に加えて新興住宅街のエリアも拡大しており、多様な世代が住まう街へと進化を続けています。



国道1号



関連情報

旧山内邸 公式HP



(1) 協議会の活動とふりかえり

学区の将来像を考えるにあたり、まずは前計画で示した取り組みについてふりかえりました。

このふりかえりは、協議会職員等へのヒアリングを通じて、前計画の5つの基本方針に対応する事業・取り組みで新しく生まれたものや成果があったこと、反省点や課題について意見を出し合いながら整理しました。

■前計画の「地域の将来像」「基本方針」	
地域の将来像	みんなで創ろう安心安全で元気な草津学区
基本方針	① 安心安全に暮らし続けられるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯意識の高いまちづくりの推進 ・支え合い・声かけあいまちづくり ・安心して子どもが育てられるまちづくりの推進
	② 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを育むまちづくりの推進
	③ うるおいのある住みよいまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合うまちづくりの推進 ・自然環境を保全する取り組みの推進
	④ 地域の活力を生み出すまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントによるふれあい交流 ・高齢者の元気を引き出すまちづくりの推進 ・草津学区まちづくり情報の発信
	⑤ 一人ひとりの人権を尊重するまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・差別のない明るいまちづくりの推進

基本方針① 安心安全に暮らし続けられるまちづくり

草津学区では災害に備え、防災マップを使った訓練や町内会による危険箇所の点検を行い、防災への意識づくりを進めてきました。毎年の防災研修会や避難訓練では消火体験や起震車体験なども実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加しています。

防犯面では、防犯カメラの設置や講習会の開催、通学の見守り活動などが続けられています。一方で、自主防災組織が十分に活動できていない町内会も多いこと、地区防災計画の更新（現状に合ったアップデート）が進んでいないことが課題として挙がりました。

基本方針② 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

立木神社の祭礼での神輿巡行には大人だけでなく子どもの参加もあり、地蔵盆など地域の歴史文化を引き継ぐ活動が続けられています。その他「くさつ歴史セミナー」での人材育成、地元酒蔵の酒粕を活用したスイーツの開発を地元の農業高校と連携するなど、ふるさとへの愛着を育む取り組みとして継続しています。

一方で、少子化の影響もあり地蔵盆を開催する町内会も年々減少しており、子どもや親、若い世代が地域とつながるきっかけが減りつつあります。

基本方針③ うるおいのある住みよいまちづくり

町内会が主体となって、草津川でのホタル観察会や花いっぱい活動などの取り組みが継続されてきました。近年では草津宿街道交流館や草津まちづくり株式会社とも連携・協力した新しいイベントを始めるなど、地域の魅力を伝える新しい試みも生まれています。

一方で、担い手が高齢化し、環境美化活動などの実施が難しくなっているところもあります。

基本方針④ 地域の活力を生み出すまちづくり

ふれあいまつりやサマーフェス、学区運動会など学区住民が世代を超えて交流できるイベントを大切に実施してきました。これらのイベントでは、草津中学校の吹奏楽部や地元団体との協力による「地域らしさ」を感じられるステージ企画も魅力の一つとなっています。また、HP や広報誌を通じて学区の様子を伝える取り組みも進めるなど、情報発信の工夫を重ねています。

一方、地域ではさまざまな団体や機関が主催する多彩なイベントが開催されていることから、SNS などを有効に活用してそれぞれの催しを分かりやすく発信するなど、今後の工夫の余地があります。

基本方針⑤ 人権を尊重するまちづくり

人権センターと連携しながら町内会長や人権推進員を対象とした学習会や講演会を継続して行ってきました。学習会では、同和問題にとどまらず外国人住民や障がいのある方への理解を深める内容に取り組むなど、幅広い人権の視点から、大切なテーマとして学習・共有しています。

その他 まちづくりセンター・協議会の情報発信

まちづくりセンターには日頃から多くの地域住民が訪れます。地域の皆さんや外部から訪れる方々に向けて、センターや協議会の活動をより知ってもらえる機会を広げていくことが期待されています。

(2) 地域の課題

本計画の策定にあたり、住民の皆さんが日ごろ感じている草津学区の魅力やこれからの暮らしで気になることを整理し、計画に反映していくためアンケートを行ったところ、地域の変化を背景とするさまざまな声が寄せられました。意見を整理する中で特に多かった声として「街なみと安全」「地域のつながり」「高齢者の安心」に関する3つの課題が見えてきました。

課題① 街なみと安全 ～街なみ環境の変化と安全性の確保～

宿場町として受け継がれてきた歴史的景観は地域の魅力かつ資源であり、住民の愛着にもつながっています。この景観を守るとともに、子どもや高齢者、観光客が安心して歩ける道づくりや、災害に強いまちづくりを求める声が多くあります。特に古い街並みが残るエリアには道幅の狭い区間が多く、**災害時に緊急車両や消防車が通れないのではないかという不安**があります。安全な生活環境を整えるため、避難路の確保や道路空間の改善が急がれます。

アンケートでも、「歩きやすい道路」「災害時の通行確保」「交通マナーの改善」などの声が多く寄せられました。歴史的な雰囲気大切にしつつ、誰もが安心して通行できるルールづくりや、歩車分離・緊急車両の進入を考慮した道路整備への期待が広がっています。

●主なご意見

- ・一方通行路で宅配やトラックの路駐が多く、歩行者や車いす・自転車が車道中央にはみ出て危険。駐車ルールを改善してほしい。(30～49歳・女性)
- ・草津川跡地公園周辺は一方通行違反が多く、細い路地のポイ捨てや古い家屋で緊急車両が入れず危険なため、対策していただきたい。(30～49歳・女性)
- ・横断歩道のない細い道で車の速度が速く、電柱も多いため、有事に緊急車両が通れない不安がある。(30～49歳・女性)
- ・消防車が入れない狭い道が多く、災害時が心配なので、対応を強化してほしい。(65～74歳・男性)
- ・災害に強いまちづくりは、本陣通りの賑わいづくりとあわせて進めてほしい。(50～64歳・男性)

課題②

地域のつながり ～世代構成の変化とコミュニティの活性化～

近年、マンション開発などにより学区の人口はゆるやかに増え、働く子育て世代の流入によって子どもの数も少しずつ増えています。

一方で、**古くからの住民と新しく移り住んだ住民との交流が十分ではなく**、日常生活や地域活動のなかで互いのつながりをどう広げていくかが大きな課題となっています。多様な世代が互いに顔の見える関係を築き、安心して参加できるまちづくりの仕組みが求められています。

●主なご意見

- ・マンションに引っ越してきたが地域イベントの案内がなく、自治会とのつながりが感じられない。子どもが参加できる機会がもっと増えるとありがたい。(30～49歳・女性)
- ・町内会は未加入世帯の増加や高齢化で担い手が減り、仕組みが限界に近いと感じる。従来のような「顔がわかる関係」は成り立たず、根本的な見直しを期待している。(50～64歳・男性)
- ・子ども会やラジオ体操などが縮小し、暑さもあって子どもが安全に遊べる場が少ない。外で遊ばせにくい状況。(30～49歳・男性)
- ・草津学区住民どうしの交流を増やすイベントや場所がほしい。小中学校の情報交換の場や、防災のための地域とのつながりも強めたい。(30～49歳・女性)
- ・他学区で、通学路の危険箇所にも年配の方が立っていてくださり、大変ありがたいと聞いたことがあります。世代をこえての交流の機会につながらないかなと思いました。(30～49歳、女性)

課題③

高齢者の安心 ～高齢世帯の増加と地域活動の持続性～

学区としての高齢化率は比較的に低めですが、高齢者の数や独居の方は増加しており、高齢化率が40%を超える町内会もあります。こうした中で、見守りや避難支援の体制づくりが急務となっています。

また、**地域活動の担い手不足により、町内会の運営そのものが難しくなりつつある状況について心配の声が挙がっています**。これからの地域を支えるためには、次世代の担い手の確保とあわせて、無理なく参加できる仕組みづくりの検討など、柔軟な運営体制への移行も求められています。

●主なご意見

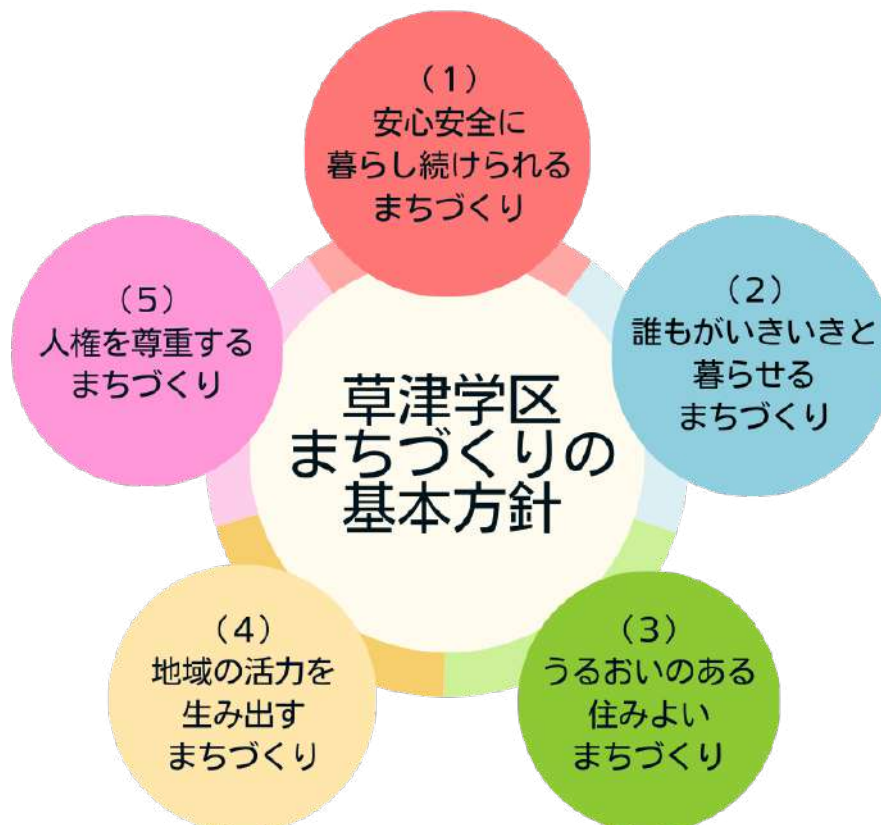
- ・町内会や各種団体の世代交代が年々難しくなっており、このままでは活動が成り立たなくなる心配がある。まち協が中心となり、関係者が連携して取り組む体制が必要だと思う。(30～49歳・男性)
- ・私の団地では住民の高齢化が進み、近い将来、町内会の維持が難しくなると感じている。若い世帯と高齢世帯が同じ役割を担うのは厳しく、高齢化を見据えたまちづくりを進めてほしい。(50～64歳・女性)
- ・別の学区から引っ越してきたが、草津学区は役が多いと感じる。これまで9年で4回役を務めたが、放課後パトロールや人権学習など、今の時代に合わない活動もあるように思う。役の負担感から町内会を辞めようかと考えることもある。(50～64歳・女性)
- ・町内会に参加しない世帯が増え、運営が難しくなっている。町内会は住民の善意で成り立つボランティア活動だという前提に立ち、行政との関係も見直す必要があるのではないかと思う。(65～74歳・男性)
- ・町内会では会員の高齢化が進んでおり、近い将来維持困難になること必至です。町内会運営も外部委託を考える時期が来ていると思います。(50～64歳、男性)

草津学区では前計画の成果やふりかえり、住民の皆さんの声を踏まえ、次の将来像を本計画の「学区まちづくりの道標（みちしるべ）」として掲げ、地域の未来を見据えながら、より良い学区づくりに取り組んでいきます。

<地域の将来像> 草津学区まちづくりの道標（みちしるべ）

みんなで創ろう安心安全で元気な草津学区 ～みんなが支え合い助け合う草津学区～ ～絆を大切にする草津学区～

上記の将来像の実現に向け、本計画では次の5つの基本方針によりアプローチしていきます。



(1) 安心安全に暮らし続けられるまちづくり

地域の誰もが安心して安全に暮らし続けられる環境づくりをめざします。



防災・防犯意識の高いまちづくりの推進

防災や防犯の意識を高める取り組みを進めるとともに、安心して生活できるまちを築いていきます。

●地域防災活動の継続

(特殊詐欺防止・空き巣対策・防災訓練等)

●学区防災計画の策定・見直し



草津学区防災計画の見直し

災害に強いまちづくりを目指して、学区防災計画を検証し、地域の実情に合わせた見直しを行います。

●防災まちづくりに向けた懇話会・勉強会の開催、市との連携・協議



(仮称) 元町・本町まちづくりプロジェクト

草津学区の防災まちづくりのリーディングプロジェクトとして、草津市と協議会、関係する住民が連携して元町・本町の課題を整理し、これからのまちづくりに必要な事業手法について検討を行います。

(例) 宮町若竹線の整備を活かした防災まちづくり 等



安心してこどもが育てられるまちづくりの推進

町内会や各種団体と関係団体が連携し、地域全体で子どもを見守り育てられる体制づくりに向けた活動に取り組みます。

●ふれあいまつり、サマーフェスなど地域と子どもの交流の場づくり

●福祉団体と連携した込田会館を活用した子ども・若者の居場所づくり



込田会館の福祉拠点としての活用

込田会館の改修により、住民の安心安全な交流の場と福祉コミュニティ機能の拠点として、協議会と福祉団体が連携・協力して活動を展開していきます。



支え合い・声かけあうまちづくりの推進

住民同士が声をかけ合い、支え合うつながりを大切にするすることで、地域の誰もが安心して暮らし続けられる環境づくりをめざします。

●町内会活動による活動の継続

●あいさつ・声かけ運動

●これからの地域に必要な支えあい活動の検討

(2) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

地域に新しく移り住んだ方も以前から住む方も互いにつながり、誰もがいきいきと過ごせるまちをめざします。



街道文化を活かした地域の魅力の発掘と発信

草津学区の特有である街道文化を活かし、世代や立場をこえた交流を深める場をつくり、地域の歴史や魅力を次の世代へつないでいきます。

●街道文化の魅力や、ふるさとの愛着を育む情報発信の促進

●地域の魅力を発信する活動の企画や連携事業の応援



地域の交流と一体感を育てる特産品づくりへの協力・連携

地域にゆかりのある資源や街道文化を活かし、協議会がつなぎ役となって、学区内の学校や事業者、各種団体・組織などと協力しながら特産品づくりに関わる取り組みを進めることで地域の交流を促進します。

(例) 酒粕スイーツ 等



新旧住民の交流や文化の継承

住民一人ひとりが地域に関わりやすく、参加することが楽しみになるような環境づくりを進めていきます。

●ふれあいまつりの開催による交流の場づくりの継続

●各種団体が開催するイベントでの連携の促進・情報発信



親子向け企画の実施を通じた担い手の発掘、手上げ方式での運営

地域協働合校の取り組み（芋ほり・餅つき）など、若い世代が活動に関わり、参加できる機会を拡大していく方策を検討していきます。

(3) うるおいのある住みよいまちづくり

「自然のうるおい」と「人とのふれあいによるうるおい」が共に感じられる、住みよい環境を育てていきます。



自然と触れ合うまちづくりの推進

地域での散歩や外出のなかで四季の変化を楽しめる場所づくりを通じて、自然に親しみ、心にゆとりを感じられるまちづくりを進めます。

- 花いっぱい運動・ホテル観察会・環境美化活動
- 草津川跡地公園で開催される関係団体によるイベントとの連携



生活の中で地域住民が触れ合う立ち寄りスポット

地域住民の交流のきっかけとなる場づくりや関係団体に取り組む立ち寄りスポットの整備（ウォークアブルのまちづくり）の活動と連携していきます。

- シェアスペース等の活用によるうるおいの場づくりの検討
- 公共空間や空き家等の活用を通じた連携の促進
- 草津まちづくり株式会社による魅力的店舗の誘致



草津まちづくり会社に取り組む事業との連携

協議会の事業と草津まちづくり株式会社との取り組みエリアが重なる事業について、連携の機会を増やします。

(4) 地域の活力を生み出すまちづくり

地域に住む一人ひとりが持つ力を活かし、まちを元気にします。世代や分野をこえて多くの団体と連携し、地域の魅力を伝える取り組みを進めます。



各種団体との連携強化

活動の連携を通じて、活力を生む地域づくりをめざします。

- ふれあいまつり（再掲）・サマーフェス（再掲）の充実
- 地域イベントでの連携の強化



元気を引き出すまちづくりの推進

世代を越えて交流ができる機会づくりに努めます。

- 各種団体との連携を通じた交流促進と手上げ方式による活動の活性化



学区まちづくり情報の発信

学区の魅力を積極的に発信し、地域全体のにぎわいにつなげていきます。

- SNSでの情報発信による学区ファンの増加



まちの情報発信の促進

地域の歴史・魅力を SNS で発信し、若い世代の参加につなげます。

(5) 人権を尊重するまちづくり

すべての人が互いを認め合い、安心して暮らせるまちをめざします。一人ひとりの尊厳を大切に、差別や偏見のない社会づくりに取り組みます。



差別のない明るいまちづくりの推進

地域の中で自然に思いやりの心が育ち、多様な考え方や立場を理解し合える環境づくりを進めます。

- 人権について考える研修・学習会や講演会、啓発活動の推進
- 草津小学校・人権センター・各種団体との連携

(1) 策定委員会名簿

(敬称略・肩書は計画策定作業時点)

委員長	沢本昌順	草津学区ひと・まちいきいき協議会 副会長
副委員長	大西正行	元三町内会長
委員	奥村久史	草津学区ひと・まちいきいき協議会 会長
	山田 毅	本六町内会長
	宮内ひろみ	エルシティ草津町内会長／草津小学校 PTA 会長
	高野元男	砂原町なかよし会 副会長
	中島 登	草津学区青少年育成区民会議 会長
	廣瀬一夫	草津学区体育振興会 副会長
	宮下千代美	NPO 法人ディフェンス 理事
	能政大介	草津まちづくり株式会社
	岩間一水	草津宿本陣・草津宿街道交流館 館長
	林 哲也	本陣商店街 副会長
事務局	稲田 優	草津まちづくりセンター長
	中野健太郎	草津まちづくりセンター
中間支援	福留直樹	草津市コミュニティ事業団 事務局長
	茶木修一	草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課長
	栗田真理子	草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
行政	眞崎貴之	草津市まちづくり協働部まちづくり協働課 地域協働係

(2) 計画策定の日程

内容	日程	検討事項
第1回策定委員会	令和7年(2025年) 7月28日(月)	・策定スケジュールの検討 ・住民アンケートの実施
住民アンケート	8月12日~9月13日	・インターネット回答の受付 ・回答用紙の配布と回収
第2回策定委員会	8月27日(水)	・アンケート実施状況 ・計画骨子案の検討
第3回策定委員会	10月22日(水)	・アンケート集計結果 ・計画目次案の検討
第4回策定委員会	12月17日(水)	・中間報告案の検討
事務局ヒアリング	令和8年(2026年) 1月26日(月)	・前計画のふりかえり
第5回策定委員会	2月18日(水)	・最終案の検討
理事会	2月27日(金)	・最終案の確認
総会	5月16日(土)	・最終案の承認

(3) 住民アンケートの実施

本計画の策定にあたり、草津学区にお住まいの皆さまの声を広く把握するためアンケート調査を実施しました。学区の魅力や生活上の不安、地域の課題や将来への思いを伺い、まちの課題整理と今後の方針検討に役立てました。

■ 実施概要

実施期間：令和7年（2025年）8月12日～9月10日

調査対象：草津学区にお住まいの方

調査方法：アンケート用紙配布およびwebアンケートの併用

回答件数：590件

【回答結果】

回答者は30代～60代前半が約6割を占め、働き盛り・子育て世代の視点を反映した結果となりました。

◆学区の良いところ・誇らしく感じること

自然・公共施設・住環境・治安・商業・歴史に関する選択が多く、「便利さ」と「地域の魅力」が両立したまちとしての魅力が認識されている結果となりました。

◆暮らしで感じる「気になる」不安を感じる」こと

「通学路や生活道路の整備が十分でない」（327件・最多）

「地震火災時の家屋倒壊・延焼、避難経路・緊急車両通行が不安」（262件）

「公共交通や移動手段の確保が困難」（224件）

「子どもが気軽に立ち寄れる居場所や遊び場の不足」（254件）

「新しく引っ越してきた人と長く住む住民との交流機会の不足」（199件）

「空き家や空き店舗が有効に活用できていない」（227件）

「センターに気軽に立ち寄れる交流スペースがない」（181件）

といった回答が多く寄せられました。

◆自由記述

生活の不安、地域活動への参加のしやすさ、地域活動における次世代育成、歴史的景観など多様な意見が寄せられ、数値では見えない実情を示す重要な情報として、課題整理や重点施策の検討に反映しました。

★★アンケートの集計結果、自由記述で寄せられた貴重なご意見は協議会のホームページにて公開しています。





第4期 草津学区まちづくり計画～草津学区まちづくりの道標～

草津学区ひと・まちいきいき協議会

〒525-0034 滋賀県草津市草津一丁目4番33号
(草津まちづくりセンター内)

電話：077-564-4999 FAX：077-564-4922